

都道府県名

愛媛県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	今治市立立花中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	2	17	34
生徒数	177	181	193	4	555	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学ぶ力を育てる指導法の研究

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

第3学年・理科・英語を中心に全学年、全教科

本校では、教師の指導力向上をめざして全教科で「学力向上」に対する取り組みを行っている。3年生の理科は、昨年から引き続き今年もT・Tで授業している。3年生の英語は、生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため、習熟度別少人数指導を実施している。そこで、第3年年・理科・英語を中心とした。

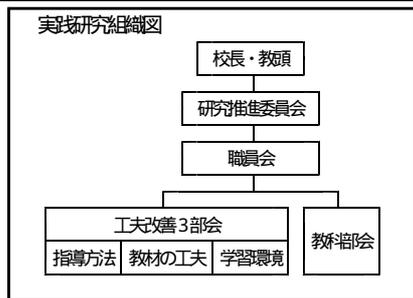
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る指導体制・方法の工夫</p> <p>仮説 基礎・基本の確実な定着を図る手立てを充実させ、個に応じた支援体制を整えていけば、学習意欲を喚起し、「自ら学ぶ力」を育むことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 習熟度別少人数指導の効果を高める指導方法・指導体制の工夫 T・T及び少人数指導の成果を高める指導方法・指導体制の工夫 創意の時間を活用した自己学習の充実を図る時間の設定</p>
平成15年度	<p>テーマ 生徒の実態（評価）を生かした指導内容・方法の工夫</p> <p>仮説 生徒の実態を的確に把握し、個に応じた教材の工夫・開発や指導の改善・充実に努めていけば、学習意欲を喚起し、「自ら学ぶ力」を育むことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 平成14年度内容の見直しと改善 学習指導に生かせる評価の視点や方法の工夫 学ぶ意欲を高める教材・資料等の整備・開発と効果的な活用の工夫</p>
平成16年度	<p>テーマ 学びの習慣化につながる発展的な学習や補足的な学習の工夫</p> <p>仮説 体験的な活動や問題解決的な学習の充実を図り、知的好奇心を刺激していけば、学習意欲を喚起し、「自ら学ぶ力」を育むことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 平成14、15年度内容の改善と継続 学習環境の整備 保護者及び地域との連携</p>

(3) 研究推進体制

本校では、学力向上フロンティアを教師の指導力向上フロンティアととらえ、校内共通体制で取り組む「工夫改善3部会」と個人の創造性を生かして取り組む「教科部会」とを相互にリンクさせていくことをめざし、右図のような研究組織としている。

- ・研究推進委員会(企画・運営委員会メンバー)
- ・工夫改善3部会(全教員で分担編成)
- ・教科部会(全教員が各教科単独と教科合体編成)

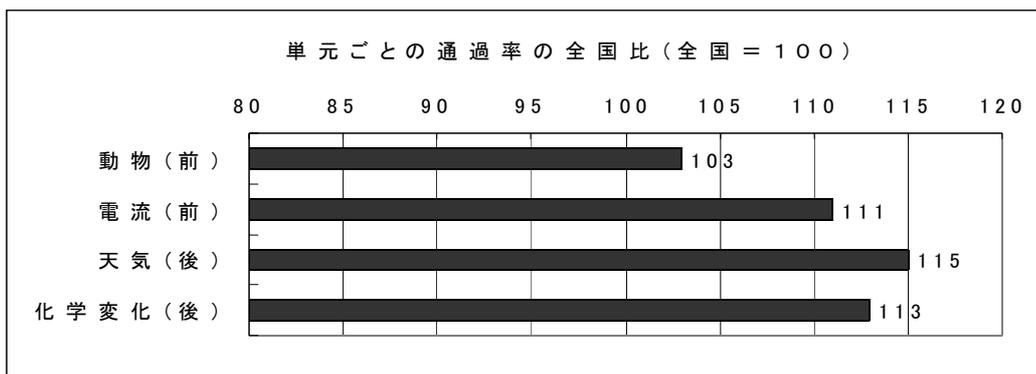


平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果(理科部会の例)

NRT検査

現3年生が2年生の2学期半ばの「天気」単元の学習から、学習シートを使った授業を実践していった。NRT検査を本年度の4月に実施した。単元別の通過率を全国標準と比較したのが、次のグラフである。上から順に4月からの学習した順になっている。「電流」の単元から試行を始めたが、「天気」の単元から具体的な手立てを毎時間の授業で実践していった。授業改善の取り組みは、有効であることが確認できたので、15年度も引き続いて実践することにした。

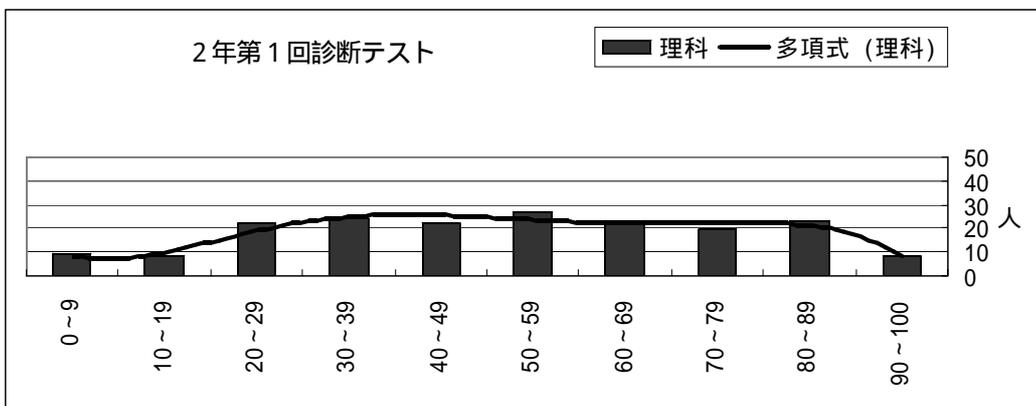


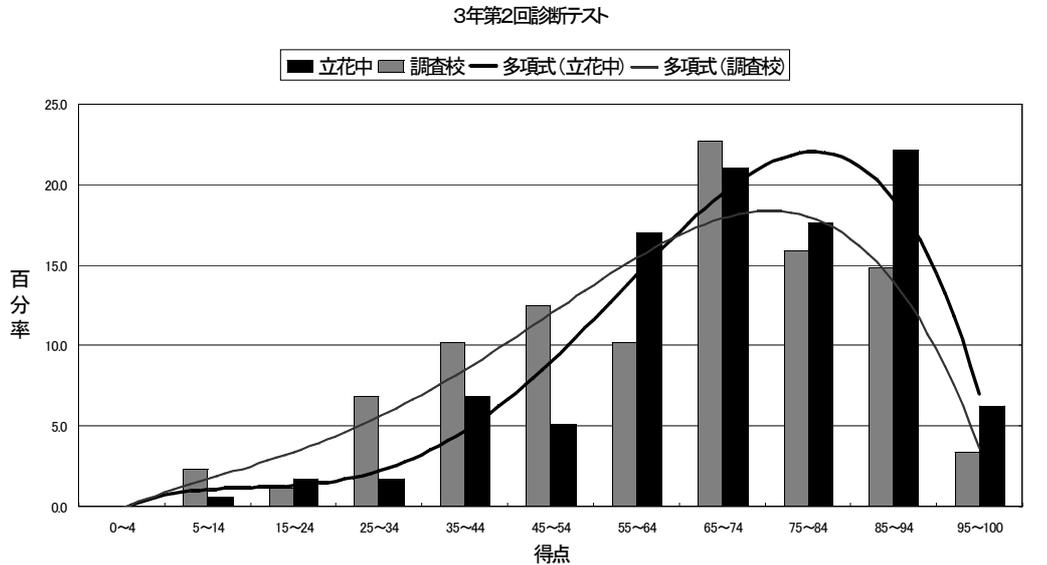
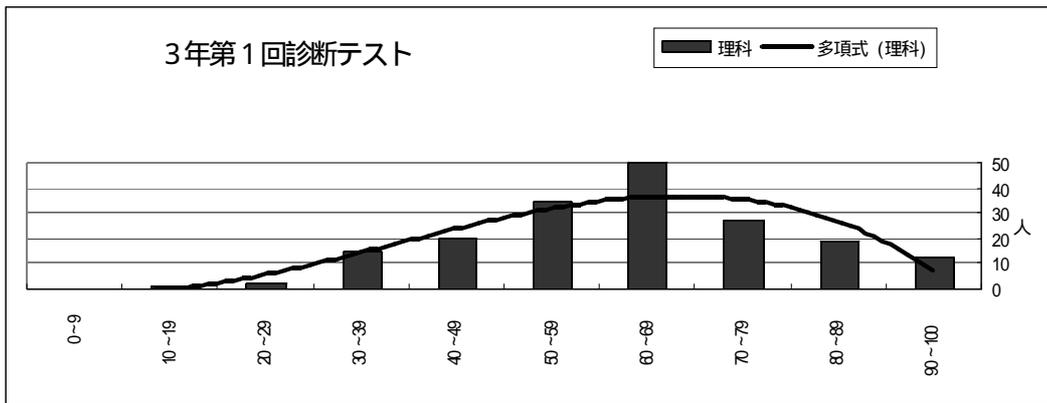
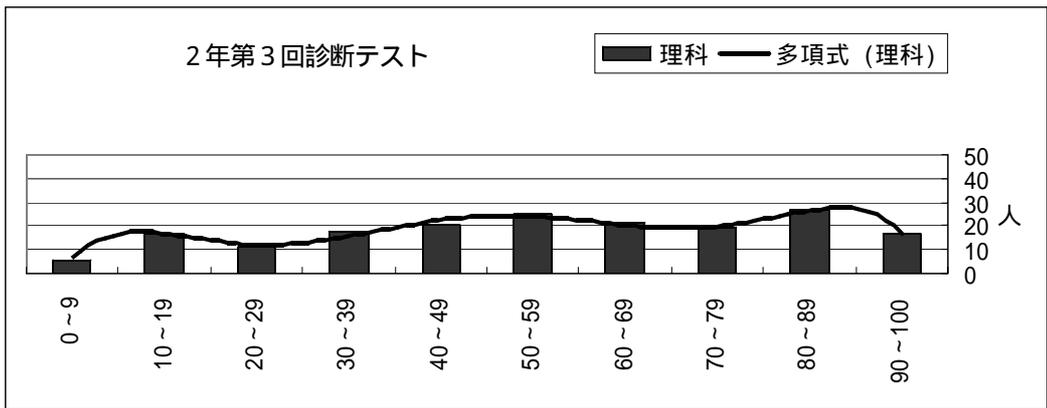
診断テストの得点分布

学力診断テストを各学年2回実施している。現3年生の2年生のときからの得点分布の推移である。最後のグラフは、調査校(3校)と比較を合わせたグラフである。多項式近似曲線は、エクセルで描ける4次~6次までの近似曲線の中から、分布が一番フィットしていると考えられる曲線を採用している。

授業改善に取り組みんだ学習内容が、出題範囲になるにつれて、下位の生徒が減り、上位の方へシフトしている。調査校と比較しても、下位の生徒が少なく、上位の生徒が多いことがわかる。

理科学習に対する意識調査



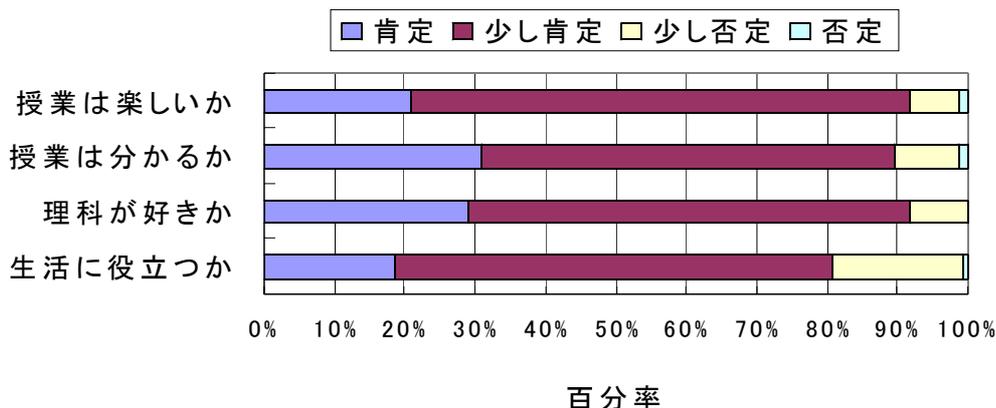


国立教育政策研究所の「学習意欲に関する調査研究(2002)」によると、やる気になる第1、2位は、「授業がよくわかるとき」「授業がおもしろいとき」であり、やる気なくなるのは、その逆であるという結果であった。それらの項目を盛り込んだ意識調査を行った。

授業の楽しさについて、92%の生徒が「楽しい」・「まあまあ楽しい」と回答しており、授業がわかるかについて、90%の生徒が「わかる」・「まあまあわかる」と回答している。90パーセントを超える生徒が、「まあまあ好き」・「好き」と回答しており、理科と生活について、約80%の生徒が、「理科の学習は生活に役立つ」と回答している。生活の身近に理科が感じられていると解釈すると、授業を離れても、自ら自然科学を学習しようとする態度が育っていると考えられる。

学力に対する生徒の意識とその原因

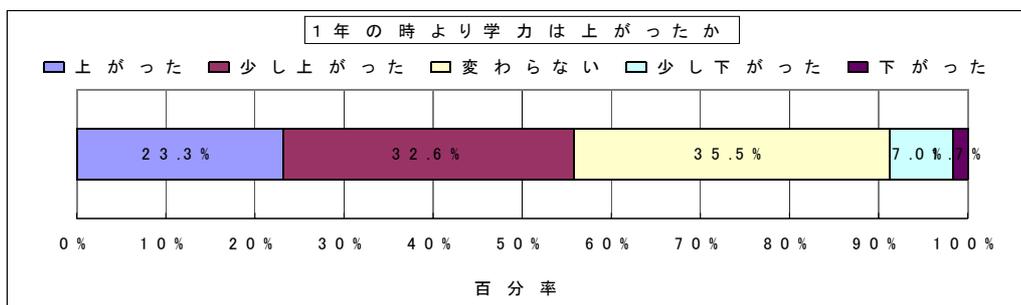
理科学習に対する意識調査



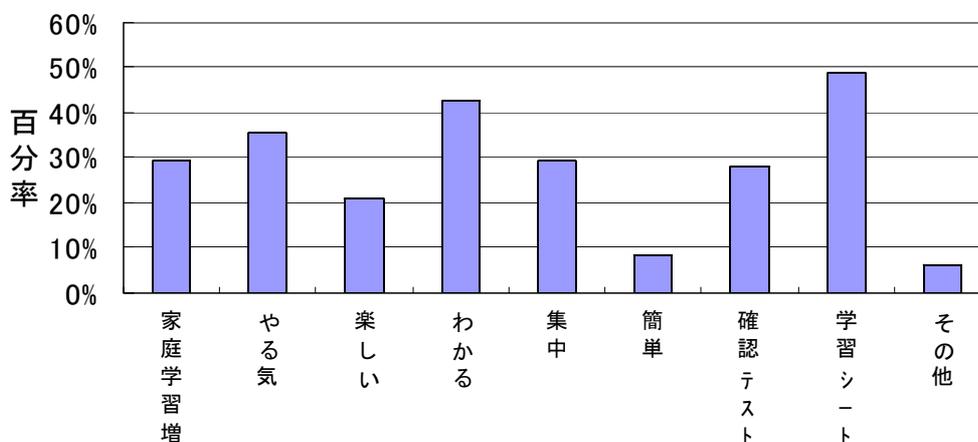
50パーセント以上の生徒が、1年生の時より学力が向上したと感じている。下がったと感じている生徒は、10%未満である。

学力が上がった原因として、「学習シートを使うようになったから」、「授業がよくわかるようになったから」を上位に選んでいる。その次に、「勉強する気になったから」、「家庭学習が増えたから」、「授業に集中するようになったから」という個人内の態度の変容を理由に選んでいる。授業改善が個人の態度の変容に影響を与えているようである。また、「確認テストの実施」を30%近くの生徒が選んでおり、効果があったものと考えられる。

学力が下がったと感じている生徒でも、授業改善に関する項目を学力低下の理由に選んでいる生徒はいなかった。



学力が上がった原因



2. 今後の課題

話し合い活動をあまり活発に行うことができなかったことである。何事もやってみなければわからないということが理科の楽しさの一つであるが、既習事項や生活体験から筋道を立てて考えたり、体験と直感的に関連づけたりして実験の結果を予想することも理科の楽しさの一つである。話し合いを行い、お互いに練り合うことによって、筋道を立てて考える力や表現する力を育てられると思う。話し合い活動を活発にしていく工夫が、今後の課題である。

学力把握のための学校としての取り組み

教研式標準学力検査NRT（4月実施）
本検査は、「確かな学力」の実現状況を全国基準に照らして客観的に診断し、それまで採られた指導が、有効なものであったかどうかを確認し、授業改善のための資料とすることができる。提供された資料を詳細に分析し、授業内容に偏りがなかったか、これまで採られた指導方法が有効なものであったかどうかを検討し、指導の改善に役立てることを目的とする。

教研式標準学力検査CRT（2月実施）
本検査は、「基礎的・基本的な学力」の指導を徹底できたかどうかを確認し、診断することができる。各観点ごとの出現率、平均正答率、1問ごとの通過率等が全国平均と比較して、本年度の課題を明確に把握することと、各教師が行ってきた絶対評価の妥当性を検討する資料とすることを目的とする。

校内定期テスト及び診断テストの結果分析の実施（各テスト実施後）
得点の分布を中心に、調査校と比較し、指導の改善に生かすことを目的とする。

学習状況及び学習習慣に関するアンケート調査の実施（学期末実施）
ペーパーテストだけでは測定できない、情意的側面の学力を測定することを目的とする。同時に、生徒の実態を的確に把握し、指導の改善に生かすことを目的とする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 今治管内地区協議会
第1回（平成15年6月12日、立花小学校）
地区協議会委員及び管内小中学校教員を対象に、研究授業を通して取り組みの成果と課題について協議を行った。

第2回（平成15年10月30日、鴨部小学校）
地区協議会委員及び管内小中学校教員を対象に、研究授業を通して取り組みの成果と課題について協議を行った。

第3回（平成16年1月27日、立花中学校）
地区協議会委員を対象に、これまでの実践研究の報告及び今後の実践研究の方向性についての説明と協議を行った。

(2) その他
フロンティアスクールにおける取り組みの状況を、立花中学校ホームページに公開する。（<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/tatit/>）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|---|--|-----------------------------|--|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 3学級以下 | <input type="checkbox"/> 4～6学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 7～9学級 | <input type="checkbox"/> 10～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～15学級 | <input checked="" type="checkbox"/> 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | <input type="checkbox"/> その他 | | | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 美術 | <input type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 保健体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |